

## 連帯のご挨拶

日本生活協同組合連合会

専務理事 和田 寿昭

日頃より全国の生協が、事業や地域の諸活動において、大変お世話になっております。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

シンポジウムの開会にあたり、一言、連帯のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人飼料用米振興協会は、2007年の世界的な穀物相場の高騰の中、畜産事業者の経営改善を図ることを目的として、多収量米、とりわけ飼料用米の普及活動の発展に貢献されてきました。これまで取り組まれてきた活動は、今後の情勢を見据えた時、今後さらに重要な役割を果たされていくものと期待しております。

世界の状況を見ると、再び動き出した TPP 協定や日・EU EPA などの広域的な経済協定、日米の2カ国間交渉などが進められており、海外からの農産物の輸入拡大、食品の安全・安心など、国内農業の持続可能性への不安が増しています。

また、絶えないテロや紛争、世界的な異常気象、米国・英国などの自国優先の政策などもあって、国際情勢はより不安定さが増しています。

このような厳しい時代において、将来の長きにわたり持続可能な社会を築き上げていこうと目標を定めた「持続可能な開発目標 (SDGs)」が、2015年に国連で採択されました。日本を含めた世界各国は、SDGs に掲げられた平和や環境などに関する 17 の目標の到達に向けて、行政、協同組合、企業、NGO など多くの組織が取り組みを始めています。飼料用米の取り組みは、SDGs の多くの目標項目に合致する重要な取り組みとして位置付けることができ、国内の生産力の向上に加え、地域の環境や景観、コミュニティを維持していくためにも重要な取り組みとなっています。一度放棄してしまった水田を再び戻すことは容易ではなく、水田を守ることは、地域の環境保全や景観維持、生物多様性の保全など、多面的な機能を維持し、地域社会に重要な役割を果たしていくためにも取り組む価値を強く感じています。

全国の生協は、飼料用米の取り組みを含む産直事業を生協事業の重要な柱として位置づけ、取り組みを進めています。この間の飼料用米の給餌数量は、全国で着実に増加を続けています。飼料用米を使った商品は、生協の組合員にも大変好評をいただいているところであり、飼料用米で育った肉や卵の取り扱いをはじめ、加工品など品揃えはさらに充実しています。飼料用米で地域農業がさらに活性化されることで、消費者にとっても「交流」「学び」「体験」の大切な場となっていくでしょう。自然の豊かさを感じ、農業や生き物の大切さを理解するなど、「食と農」をつなぐ取り組みは、豊かなくらしの実現に大きく寄与しています。

地域とともに歩む生協は、今後も飼料用米の作付面積・生産量の確保、販路の拡大、コストの削減、組合員認知の向上などの取り組みを通じて、飼料用米の利用をさらに推進してまいります。

飼料用米をはじめとした地域社会づくりの取り組みが、地域の人々のくらしをより豊かにし、日本の農業を強めていくことを誓い合って、ご挨拶とさせていただきます。

